

川崎信用金庫理事長賞作品

「憧れの兄にはいてもらうシューズ」

東高津小学校 6年 宮森 凱

ぼくの将来の夢は、サッカーシューズを開発する人です。きっかけは、「大人になったらサッカーにかかわることで働きたい」と思ったことです。

ぼくがはいているサッカーシューズはぶつぶつがあったり、つるつるがあったりします。そういったものは全て開発している人が考えています。ぼくはそういうことにたいへん関心、憧れを持っています。

ぼくは今、くつを開発するために、「シューズノート」を作っています。自分がそのくつをはいてどういう時にどういう成果が出たのかなど、その時のくつの状況を書いておくノートです。子供のうちにこういうのを書いておけば、大人になったらなかなか子供の気持ちは分からないけど、自分が子供のころはいていたくつにたいする気持ちを書いているから、大人になっても子供の気持ちが分かります。だから、ぼくが大人になってくつを開発する時、子供に満足できるようなくつが開発できます。そしてぼくは、みんなから「このくついいな」と言われるようになりたいです。

ぼくはこの前、プロサッカー選手の岡崎選手専属のくつを開発する人についてのテレビを見ました。そのテレビはすごく心に残りました。その人は、岡崎選手の希望をすべて実現させ、さらに、岡崎選手の走り方などを見て研究し、もっと速く走れるようになるくつを開発していました。ぼくは、素晴らしく思い、それと同時に、色々なことを学ばないとこんな素晴らしい開発はできないんだと思いました。

ぼくは、将来くつを開発する人になりたいから、今、シューズノートにどのメーカーはどのような特ちょうを持っていて、そのくつの弱点はなんなのかなど書いています。そして、その研究をして自分が設計したサッカーシューズを書いてみたいと思います。そして、そのくつをきっかけにどんどん研究を重ねて、大人になったら自分が作った、「理想のシューズ」を作りたいと思います。

家族に自分のこの夢を話したら、「頑張れ！」と応援してくれました。

お父さんは、「いつか、凱が開発したくつをはいてみたいな」と言ってくれました。お母さんは、「絶対に実現できるからあきらめずに頑張れ！」と言ってくれ、お兄ちゃんも、「プロサッカー選手になったら凱の作ったくつをはいてプレーしたいな」と言ってくれました。ぼくは、こういう家族の言葉を聞いて、「絶対に実現させる！」と強く思いました。

そして、ぼくは、自分が作ったくつをはいてプレーしてもらう人を決めています。それは、ぼくの兄です。兄は、ぼくよりサッカーが上手でぼくが一番尊敬している人で、一番信頼できる人です。ぼくは、そんな兄にはいてもらいたいです。だからぼくは、将来、兄の専属になって兄が満足するようなくつを開発したいです。

そして、世界中の人にはいてもらって、世界中の人に愛されるシューズを開発したいです。

ぼくはこの夢を夢で終わらせず必ず実現させるように日々研究し、努力し、夢を実現させます！